

茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 第4回会議 概要

開催日時	平成27年10月1日(木) 14時00分～
開催場所	茂原市役所 1階 102会議室
出席者	推進会議委員14名(うち4名所用のため欠席) 永長副市長、事務局(岡澤企画財政部長、中村企画財政部次長、高橋企画政策課政策推進室長、深山企画政策課主査、吉野企画政策課主事) 株式会社ちばぎん総合研究所(関調査部副部長、福田調査部主任研究員)
会議次第	1. 開会 2. 挨拶 3. 協議 (1) 茂原市人口ビジョン(素案)について ① 概要説明 ② 茂原市人口ビジョン(素案)に対する意見交換 (2) 茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について ① 概要説明 ② 茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)に対する意見交換 4. 閉会
会議要旨	2. 挨拶
永長副市長	前回までの会議において、皆様には熱心に議論いただき、ご意見をいただきまして、本日協議いただきます「人口ビジョン」「総合戦略」の素案をまとめることができました。 「人口ビジョン」につきましては、ある程度先の見通せる2040年を想定し、目標人口を8万5千人としました。考えが甘いというご意見もあるかと思いますが、総合戦略に取り組むにあたり、夢を持った希望のある目標とさせていただきます。 「総合戦略」につきましては、茂原の特徴をつかんだ企業誘致を中心にした施策と、それに伴う子育て環境の整備に重点をおき、戦略を進めていきたいと思っております。 本日もたくさんご意見をいただき、案をまとめていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。 以上簡単ですが、あいさついたします。

3. 協議

(1) 茂原市人口ビジョン（素案）について

① 概要説明

事務局から資料に基づき説明

② 茂原市人口ビジョン（素案）に対する意見交換

【主な質疑応答】

- | | |
|-----|--|
| 座長 | <ul style="list-style-type: none">• 人口ビジョンについては、前回会議において 2060 年では長過ぎるという意見があった。それを踏まえ、2040 年に焦点を合わせ、8 万 5 千人の人口を維持するという目標である。• まず、策定期間の区切り方について、質問・意見をいただきたい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none">• 期間としては良いと思う。2040 年は 25 年後であるので、5 年サイクルで物事を考えると 5 回のサイクルとなる。作業する人たちの年齢等も考慮し、考えの及ぶ範囲として 2040 年は妥当である。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none">• 国と県が 2060 年に対し、茂原市は 2040 年とすると、2060 年の茂原市はどうなるのかという問い合わせが想定されるが、どう考えているか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none">• 公表する人口ビジョンとしては 2040 年 8 万 5 千人である。• 県は 2060 年を策定期間としているところが多いが、市町村としては 2040 年のところが多い。 |
| 座長 | <ul style="list-style-type: none">• 国や県は人口の多い自治体と少ない自治体の両方を踏まえた上での目標値としているが、市町村は最小単位となるので変動が直接的に表れる。それを踏まえ、期間を多少短く設定することは一定の妥当性がある。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none">• 45 年後の 2060 年となると架空の世界である。 |
| 座長 | <ul style="list-style-type: none">• 前回会議で出た論点であるが、軌道修正のあり方について事務局の考えはどうか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none">• 総合戦略の修正については、検証の段階で、目標値に対する状況により戦略の修正をすることになる。軌道修正としては、目標人口の 8 万 5 千人は変更せず、戦略の修正により目標を目指す。 |
| 座長 | <ul style="list-style-type: none">• 人口の将来展望について、質問・意見をいただきたい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none">• 目標人口の数字上の問題と、それを達成するための戦略のマッチングがどれだけ考えられるかによる。目標人口を達成できる内容の戦略になっているのか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none">• ここに掲げてあるそれぞれの施策がもたらす事業成果により、目標人口を達成できるよう考えているが、各事業の実施に伴いその効果が存分に |

発揮できるよう施策を見直しながら進めていきたい。

- | | |
|-----|---|
| 委員 | • 希望出生率については、国と同水準ということで良いと思う。ただし、その出生率を達成するための地域格差がかなりあると見た方が良いか。 |
| 事務局 | |
| 座長 | • 現在茂原市の出生率が1.25であるので、非常に厳しい目標ではある。
• 茂原市の出生率は全国平均、千葉県平均と比べて低い状況である。アンケート結果においても、希望する子どもの人数が全国と比べて低い。ただし、人口ビジョンの素案においては、国の人口ビジョンから数字を下げることはしていない。 |
| 事務局 | • 8万5千人というのは、国の希望に沿った数字であるが、茂原市の場合は現状の出生率が既に低い状況であるので、更なる努力が必要ということである。
• 文章表現や量、グラフの使い方についてはどうか。 |
| 委員 | • 前回会議にて骨子案を示したところ、文章が多いという意見があった。素案は文章形態となっており、読み込まないと記載されている数字が読み取れないかと思う。見せ方として意見があれば伺いたい。 |
| 事務局 | |
| 座長 | • P.14～P.16 非常にわかりにくい。もう少し簡単に表現できないか。
• 他市を参考にし、表現を工夫したい。 |
| 委員 | • はじめに1ページで簡潔にまとめた概要を付けたり、項目毎（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）に要旨を付けても良いのではないか。 |
| 事務局 | |
| 座長 | • 座長の提案に賛成である。全て読まないで概要が把握できないというのは読みづらい。
• 検討する。 |
| 委員 | • P.48「3. 人口の変化が地域の将来に与える影響」で負の影響が7つ上がっており、人口ビジョンを策定し戦略に取り組むことで、それらを克服していくという構図になっている。その7つの負の影響をどうしていきたいか「Ⅲ. 人口の将来展望」に繋がるとわかりやすい。総合戦略への繋がりも明確にしていきたい。 |
| 事務局 | |
| 委員 | • 繋がりを考え、構成を検討する。 |
| 事務局 | • 2040年の人口の将来展望に「雇用の場の創出等による若年層の流入」とあるが、若年層に絞った理由は何か。この年代の人材はどこも欲しいはずなので、奪い合いになるのではないか。 |
| 委員 | • 人口の動向を見ると、高校を卒業すると東京に転出し、東京で就職すると戻ってこない。そのため、戦略により若年層の転出を抑制し、転入を増やす。 |
| 事務局 | |
| 委員 | • 以前提示いただいた、ちばぎん総合研究所の資料が見やすく、見慣れている形式である。色使いなども茂原色があると良い。若い人たちにも見ていただけるよう工夫していただきたい。 |
| 事務局 | • 見せ方については検討する。 |

- 委員 • P.55「2. 目指すべき将来の方向」に「現状・課題」と「目指すべき方向性」が書かれているが、課題が多いという印象を受ける。もっと「目指すべき方向性」を膨らませた方が良い。課題に対して対応策が少ないように見えてしまう。
- 事務局 • 人口ビジョンは総合戦略を作る上での問題提起のような位置付けになる。人口ビジョンの中で方向性のボリュームを増やし、総合戦略への繋がりを工夫したい。
- 委員 • P.55で課題が示されているが、先に課題を示し、後ろにその資料を付けた方が見やすい。
- 座長 • P.48の負の影響とP.55の課題をまとめ、各種データはそれを裏付けるものとした方が、全体の骨格が見やすい。
- 事務局 • 本日欠席の委員から意見書の提出がありましたので報告いたします。

策定期間については、25年先まで考えるというのは容易なことではありませんが、それでもイメージ可能な範囲なのかなと考えます。晩婚化、晩産化を考えると1世代先(30年くらいでしょうか)、いま産まれる子どもが産む年齢になる頃を目指してもいいのかもしれませんが。

人口の将来展望については、現在の希望出生率があくまでも現状の環境の上でのことであり、環境が改善されていけば希望出生率は上がると考えられます。そのため、長期的な視野に立ち、さらに上の数値(全国平均や人口置換水準)を目指すのは良いと感じました。

文章はわかりやすく、グラフもとても見やすいと感じました。

(2) 茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について

① 概要説明

事務局から資料に基づき説明

② 茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)に対する意見交換

【主な質疑応答】

- 座長 • 基本目標について、質問・意見をいただきたい。
- 人口ビジョンで指摘したP.48、P.55の現状・課題と、総合戦略のP.7～P.10の現状・課題が対応していない。人口ビジョンで挙げている課題全てを解消するのは難しいとしても、その課題を総合戦略で集約しなおし、力を入れて取り組んでいくというような繋がりが見えると一貫性が出てくる。人口ビジョンにおける現状・課題の整理の仕方と、総合戦略における現状・課題の整理の仕方について説明いただきたい。

- | | |
|-----------------|--|
| 事務局
委員 | <ul style="list-style-type: none"> • ご指摘の通り一貫性がないので、整合性をはかるよう検討する。 • 人口ビジョンの P.48 図表 50 に「(1) - 2 公共施設・インフラの過剰化」とあるが、本文中では「(1) - 2 公共施設・インフラの老朽化」となっているので文言を統一した方がよい。 |
| 事務局
委員 | <ul style="list-style-type: none"> • ご指摘の通り統一する。 • 総合戦略は 5 年間で取り組むが、時系列で考える際、P.13 の体系図のイメージが湧かない。 |
| 事務局
委員
座長 | <ul style="list-style-type: none"> • 施策ごとに短期・中期・長期で検討していく。取組内容において<先行型>と書いてあるものについては、既に進めているものである。 • 説明されて知ることはできるが、現状の市の取組みがよくわからない。5 年間のスケジュールや進捗が市民に見えるようにしていただきたい。 • 5 年間のタイムスパンの中でどのように進めようとしているのか、進捗管理や評価をしていく際にも関わってくることである。スケジュールを念頭に置き進める必要がある。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> • 基本目標 1 「産業が力強く成長するまち」では茂原にいはる工業団地など具体的な記載があるが、他の基本目標については具体的な記載がなく、中身が見えない。 |
| 事務局
委員 | <ul style="list-style-type: none"> • 確定版では具体的な表現にする。 • P.12 基本目標①で「地域資源（天然ガス・ヨード、農産物など）」と限定せず、「地域資源をより掘り起こす」「既存の地域資源を活かすと共に、未開発の部分掘り起こす」といった、未来に続く書き方にした方がよい。 • 同じく基本目標③で「地域資源（茂原七夕まつり、茂原公園、広域商圏を形成する商業施設など）」と限定せず、広げられる表現にした方がよい。 |
| 事務局
委員 | <ul style="list-style-type: none"> • 新たな資源を発掘していくことは重要であると思う。ご指摘の通り、基本目標の中で限定的な記載をするのは避けるようにする。 • P.11 の基本目標 1 に対する課題の中で、「ダイバーシティ（雇用の多様性）の推進」に関する取組みが盛り込まれていない。 • P.7 「(1) 安定した雇用の創出」の課題で「多様な層の働き方に対する支援が必要」「若年者の U ターンや I ターンの希望を叶えるため」とあるが、施策に盛り込まれていない。入れるとすれば、P.25 「②地元企業への就職による定住の促進」になるのではないか。 • 子育てに関しては細かく書かれているが、女性や高齢者の就業に関する部分については、課題があるにも関わらず盛り込まれていないので検討していただきたい。 |
| 事務局
委員 | <ul style="list-style-type: none"> • 検討する。 • P.19 「付加価値の高い農産物の作付け支援」「消費者需要の把握と、需要に適合した農産物の栽培促進」とあるが、曖昧で難しいのではないか。 |

- 事務局
委員
- 具体的な取組みが見えない。
 - 具体的な取組みは未定であるので、農協にも支援いただきたい。
 - P.19「○有害鳥獣駆除事業の広域連携による効率化の推進」については、将来的にどう考えているか。
- 事務局
- 今年度委託し実施している。民間警備会社の技術を活用するとともに、高齢化している駆除従事者の技術を民間警備会社に伝承することで、効率的な駆除活動となる。先進的な事例ではないかと考えている。
- 座長
- 農産物の6次産業化についても難しい。他市では、広域的に考えて6次産業化を図っていかないと難しいという議論がされている。広域の視点が弱いのではないか。
- 事務局
- 長生地域広域連携で地域ブランドも検討しているが、各市町村の総合戦略策定時期がバラバラであり、調整ができていない。有害鳥獣駆除事業や医療分野についても、広域で取り組むべきであると考えている。
- 委員
- 茂原にいहार工業団地については、イメージが掴めるような図があるとわかりやすいのではないか。
- 事務局
- 総合戦略には、個別の取り組み内容の詳細までは掲載しない。総合戦略は、各担当が人口減少対策に有効と考えられる取り組みを基本目標に基づき体系化したものであり、詳細は記載しない。
茂原にいहार工業団地の詳細については、担当の商工観光課のHPに図面等を掲載している。
- 座長
- 本日欠席の委員から子育てに関する意見をいただいている。

P.20【基本目標2 結婚・妊娠・出産・子育てを応援するまち】

指標が子育てを「楽しいと感じることの方が多し」市民の割合にするのであれば、「①子育てしやすい家庭づくり」よりも「子育てを楽しめる家庭づくり」がいいのでは。子育てしやすい環境と、子育てを楽しめる心理的状況を目指すべき。

P.21【①子育てしやすい家庭づくり】

「イクメン」という言葉を今もなお行政が使用することに抵抗を感じる。父親が育児をすることがほめられ、持ち上げられる風潮はそろそろ終わりだと思ふ。「イクメン養成講座」ではなく「パートナーシップ養成講座」などとし、夫婦子どもともに参加でき、そこで父親向け講座を持つなどしてはどうか。

P.23【③子どもの健康な心と身体の育成】

子育て世代交流の場が保育所に限られているのはなぜか。保育所と幼稚園が同じように活用されるべきだと考える。

「幼児期における教育内容の充実」は良いと思ふ。欲を言えば子育て支援課と学校教育課が連携し、0歳から12歳（15歳、18歳）までの子どもの育ちをともに考えて特色を出していけるとよいと思ふ。

P.23 【④子育ての公的支援の充実】

「気軽に子どもを預けられる環境の整備」の「気軽に」が、意図は理解できるが言葉としては抵抗を感じる。「子どもを預けられる環境の整備」、「必要な時に子どもを預けられる環境の整備」、「子どもを預けられる多様な環境の整備」など、難しいのですが、ご一考いただければと思います。

事務局
委員

- 検討する。
- 文部科学省で高大連携の話がたくさん出ているが、中高連携、まずは小中学生に地域の産業を知ってもらうことから始めてはどうか。「キャリア教育」という言葉は古いかもしれないが、地域の産業を知るという教育が必要である。茂原樟陽高校では就職率が6割であるので、連携できるのではないかと考えている。地元就職したい生徒がいたとき、ベースとなる教育を受けていると高校において進路指導がしやすくなる。地元に残って働きたいという若者もかなりいるので、一貫したキャリア教育を盛り込んでいただきたい。幼児期における教育内容に限定されているので、検討していただきたい。

事務局

- 茂原商工会議所の雪田委員は体験教室検討委員会委員長であり、中学生を対象に未来の起業家を育成するための経営体験教室等を開催しているということである。そのような取り組みが重要であると思う。
- 庁内の作業部会において施策の検討を重ねた。メンバーに小学校の校長が入っており、現場の状況を踏まえて施策を検討したが、教育の現場で新たな取り組みを実施することの難しさを感じた。学校側からも提案はないが、こちらから提案することもハードルが高い印象である。地域の産業を知ってもらうことはとても良いと思うので、実現に向けて検討していきたい。

座長

- 若い世代の定着・転入を図るためには、相当のことをやらないと成果が出ない。教育の視点は非常に大事である。高校生に限らず、小中学生に対する地域の歴史や郷土愛教育、地域にどんな事業者がいるかを知ってもらうこと、地域との交流も大事である。インターンシップにも繋がる。子どもの頃から地域との接点をつくっていかないと、地元に残ってもらうのは難しい。
- 小中学校の先生方は確かに忙しいが、土日を使って地域と連携して取り組むなど、学校に負担を掛けず地域の団体や地域住民と連携しながらまちづくりの実践の場を開いていくことが必要である。そこから学校に働きかけていくというルートであればいくらでもつくることができる。そういったことを徹底的にやっていかないと、子どもたちは地域に目を向けない。
- 交流の場ということで、こういった仕事があり、どのような農業の作業

委員	<p>をしている人がいるのかを知ることでも大事である。また、お金の動きに関して金融機関の協力を得て出前講座を実施しているところもある。世の中の仕組み、地域の仕組みを体験できる場を提供するのもよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業名や取組内容が書かれているが、具体的に何をするのが気になる。「イクメン養成講座」の受講人数が KPI の指標とされているが、その数値目標を 100 人とした場合、100 人集めるために何をするのか、そこが大事であり議論したいところである。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 1つ1つの施策について詳細を掲載し、内容について議論することは、分量や時間の問題があり難しい。 現段階で詳細が決まっていない施策も多数ある。今後は成果を検証する立場で意見をいただきたいと考えており、その際には、実際に取り組んだ内容や、その方法について議論していただくことになる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 企業立地奨励金や雇用促進奨励金など、いままでの実績で効果が大きく現れているものはあるか。茂原にいはる工業団地は千葉外房有料道路を使って千葉市からも通勤圏であると思うが、目標に対して充分カバーできる施策になっているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 企業立地奨励金については既に茂原市で実施しており、取組みを拡充するという位置付けで記載したものではない。行政の支援が企業の進出先選定に与える影響は、それほど大きくないと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 「茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の位置付けと、現在進めている都市計画など他の計画との関係はどうなるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 他の計画と並行して進めるものであり、交付金によってより加速させていくものであると考えているが、総合戦略はソフト事業がメインとなる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 住まいの環境整備となるとインフラ整備が必要になると思うが、具体的にどう考えているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 住まいの取得支援としては、三世代同近居支援としており、高齢者支援、子育て支援という考えがベースの施策となっている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ベースにハード事業が無いと、ソフト事業はできないのではないかと。ソフト事業とハード事業は常に両輪で考えていく必要がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 茂原ロータリークラブ、茂原商工会議所青年部では、学校へ出張し企業の職業体験を実施している。今回青年部では南中学校で実施する。他の団体としては JCI、ライオンズなどがあるが、産業まつりなどで市がバックアップしてくれると、大規模な職業体験を開催できるのではないかと。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 総合戦略は今後も見直し、改善していくものであるため、そのような提案を引き続きいただきたい。
座長	<ul style="list-style-type: none"> P.18～P.19 空き店舗対策、農業の 6 次産業化、新規就農を含めて、実態調査はこれまで実施してきていると思うが、商店街の方々が今後店舗

をどうする予定であるのかが把握できていないと、商店街の活性化、空き店舗活用といってもビジョンが立てられない。本来は丁寧に1軒1軒ニーズを把握しながら進めていく必要があるが、実態調査をどう位置付けているか。農業についても同様に、後継者不足と言われているが中間管理機構ができ、借りる、貸すといったあり方も今後積極的に促進していく流れになっている。しかし地域によっては貸したがらない農家もあり、外部から企業が入ってきて大規模的に管理することになっても、知らない人に貸したくないという声はよく聞く。方向性を決めるためにも実態調査が必要である。

- 8万5千人という目標人口を設定するので、子育て支援、教育について徹底的に充実させないと達成は難しい。他の自治体と共通している施策が多いので、プラスアルファの目玉となるものが必要。これが茂原の子育てだという魅力、特色をもっと出していかないと若い人たちから選んでもらえない。子育て、教育における、他に無い特色をどう描くかを検討いただきたい。
- P.30「①活発な市民活動の推進」のKPIの指標は良いと思うが、市民活動のこれからの水準というのは、NPOや市民活動団体と地域団体との交流、民間企業と市民活動団体との交流など、地域連携、地域協働といった視点が重要であり、色々な担い手の掛け合わせに積極的に取り組んでいかないと地域が縦割り化しがちである。そういった視点を盛り込まないと、今後の市民活動の推進としては弱いので検討いただきたい。
- 《主要な事業》に“担当課”と表記されているが、これらの事業を進めていくのは担当課だけではなく、民間企業、金融機関、市民活動団体など、様々な連携の担い手が想定される。他の自治体では連携主体や実施主体を記載しているが、協働しながら事業を進めていくということを示し、促すことに繋がる。実施しながら連携主体が増えていくことが望ましいので、5年間でどういった連携主体を増やしていくか、方針まで描けると良い。協働を念頭においたときの描き方となるので検討いただきたい。
- 全体を通して、今後の行政としての立ち位置とスタンスをどう記載するかが協働の観点でも重要である。人口減少の影響を様々な取り組みにより最小限に抑え、行政サイドが提供できる部分を確保していく視点が必要である一方で、他方では行政がダウンサイズしていかなくてはならない。行政が橋渡し役に徹し、民間主導に委ねるなど、公と私の役割分担はいま決められるものではないが、適材適所を見出しながら進めていく必要がある。役割分担や連携のあり方を常に模索しながら進めていくという内容を盛り込んでおかないと、全て行政主導でやっていくように見えてしまう。表現として検討していただきたい。
- 予算についてはどうなっているか。

事務局

- 平成 26 年度の国の予算 1,700 億円に対し、平成 28 年度は 1,080 億円となった。茂原市には 5,000 万円程度交付されるのではないかと考えているが、同額の市町村負担と合わせて、事業として 1 億円程度となる。優先順位を付け取り組んでいく必要がある。

委員

- 2040 年時点での財政規模はどの程度を想定しているか。

事務局

- 想定していない。
- 財政規模については、総合計画が 2020 年までであるので、2020 年までの財政フレームはある。今後事業ごとの財源を積算していくが、約 130 の事業があり、国の予算が減っているので、より効果の見込める事業に充てていくことになると思う。来年度以降検証していく中で見直しを図っていきたい。次期総合計画を策定するにあたり、新たな人口フレーム、財政フレームを策定することになる。

【今後の予定】

事務局

- 本日の意見を踏まえ幹事会および策定会議で再度検討し、確定版が出来次第郵送させていただく。
- 今後は検証機関として協力いただきたい。平成 26 年度の繰越事業が今年度で終了するので、まずその成果について検証していただくことになる。
- 次回開催は平成 28 年 5 月頃を予定している。

以 上